

入院中の感染予防対策についてご協力お願い

平成21年9月8日 京都府立医科大学附属病院 感染対策部

新型インフルエンザ(A/H1N1)が全国的に大流行しています。9月以降は、季節性のインフルエンザが混在し、さらに流行が拡大する可能性があります。また、秋・冬は、ノロウイルス胃腸炎の流行期でもあり、通常、これらの流行期は3月下旬頃まで続きます。

当院には、免疫が低下し、感染症罹患により、重症化しやすい患者さんが多く入院されています。そこで、

1. 院内への感染症の持ち込みを最大限に防ぐ。
2. ご自身の感染の機会を避け、予定治療を延期、中断せず最善の体調で受けていただく。
3. 感染症発生、拡大による複数の患者さんの治療中断や入院制限による病院の機能の低下を防ぐ。

以上の目的のために、次の事項についてご協力お願いいたします。

1. 手をこまめに洗ってください。

- ・ すべての感染症を予防するために最も重要な対策は手洗いです。病室の入室・退室前後に、病室前に設置している擦式消毒用アルコール製剤、または石けんと流水での手洗いを行ってください。また、手が咳やくしゃみなどで明らかに汚れている場合やトイレの後は、必ず石けんと流水での手洗いを行ってください。
- ・ 手を拭くハンカチやタオルは、多めに準備し、汚れたら交換してください。(ペーパータオルや乾燥機がある場所では、こちらをお使いください。)

2. 咳エチケットにご協力ください。

口・鼻を覆わずに咳やくしゃみをする、飛沫(ウイルスを含んだしぶき)が1~2m飛び、周囲の人への感染伝播につながります。

<咳エチケットとは？>

咳やくしゃみが出る時は、マスクを正しく着用する。(ブリーツを広げ、口・鼻をしっかりと覆う)

- すぐにマスクを着用できない場合には、咳やくしゃみをする時に、ティッシュなどで口と鼻をおさえ、周りの人から顔をそむける。
- 使用後のティッシュは、すぐにゴミ箱に捨てる。
- 口・鼻を手で覆った場合は、流水と石けんで手を洗う。

3. 禁煙にご協力ください。

喫煙は、インフルエンザに感染するリスクを増加させることがわかっています。また、喫煙室は、マスクを着用せず人が密集し、喫煙時には口に手を持っていくという行動からも飛沫・接触感染が発生しやすい場所です。当院でも、喫煙室でインフルエンザの二次感染が発生したという経験を得ています。

4. 不要不急の外出・外泊は、できる限りお控え願います。

- ・ インフルエンザをはじめとしたウイルス感染症は、発症の数日前から感染力を持つ疾患が多数あります。流行期は、市中でも同感染症にかかる人が増加するため、それに伴い外出・外泊時の感染のリスクも増加します。
- ・ 外出・外泊をされる場合は、マスクを着用、手洗いうがいを励行し、人ごみを避ける(インフルエンザ感染予防)、生の二枚貝(生ガキなど)の摂食を避ける(ノロウイルス感染予防)などの行動により、感染予防に努めてください。

5. 面会者は、最低限に絞ってください。

- ・ 人の出入りを少なくすることは、感染の機会、感染症の持ち込みを減らすことにつながります。
- ・ 発熱 かぜ症状(咳・くしゃみ・鼻水・のどの痛みなど) 下痢 嘔吐 発疹 耳の下のはれ 眼が赤いなどの症状がある場合は、感染症(インフルエンザ、感染性胃腸炎、麻疹(はしか)、水痘(水ぼうそう)、風疹(三日はしか)、流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)、流行性角結膜炎など)にかかっている可能性が高いと判断し、これらの症状がある方の面会はお断りしています。麻疹や流行性耳下腺炎は、ワクチンを接種、また一度罹患していても、まれにかかることがあります。院内で発生すると病棟全体の患者さんの免疫検査や対策が必要となり、治療に与える影響も長く(最大1ヶ月)大きくなります。

現在、病院内のマスクの供給が不安定となっており、今後枯渇するおそれがあります。治療上(移植後、抗がん剤治療後の免疫低下時など)マスクの装着が必要な患者さんには病院からマスクを提供しますが、その他の患者さんご家族など面会者の方々には、ご自身でマスクをご準備いただきますようご協力願います。